

4/9-4/23 練習時の大久保キャプテンのご指導他（主に演奏会に向けて）

音声の文字起こし・文責：B2 櫻井

◆全曲共通

【楽曲演奏】

- 前曲終了後、次の楽曲の「曲想」を、音取り時点で体に入れておく。演奏開始後では遅い。
＜曲想で意識すること＞
 - ・表現・声色（勇壮、優雅、くだけた感じ、ハードボイルド、エッジを効かすなど）
 - ・リズム（8分の6、シャッフル、オンビートできちんと刻む、など）
 - ・テンポ（マーチの速さ、遅くなりすぎない、歌詞のしゃべりに焦って走らない など）
 - ・曲中での変化（転調（特にキー音）、テンポ、強弱）
- 本番は全曲一発勝負。一曲一曲に集中力を注ぎピリッと歌う。

【歌い方】

- 合唱は調和、個人が悪目立ちしない。そのコツは、各自が80%程度くらいの出力（＝周りの音を聞く余裕をもって）で歌うこと。それで、調和を生んだ響きになる。
- 正確な音程がパート内の個性（声質、声色、音量など）を生かす。
- オペラ歌手のつもり。豊かな音を出す意識で、中をたくさん開け縦に縦にを意識しつつ、声が出ようとするのを自然に解放して届けるイメージ。
- 縦に縦に歌えば歌うほど、横文字っぽくなってくる。
- 表情を豊かに歌いましょう。にらみつけないよう、口角上げる。
- 「元気よく」と「粗雑」は違います。以下は粗雑です。
 - 「声質：横に平べったい声」
 - 「発音：細部を端折っている」
 - 「音符：音程と音の長さが維持されていない」
 - 「調和：他のパートを気にせず我が道を行く」 など
- コンサートで聴衆に聴いてもらう完成度の楽曲を本来の荒々しさや豪快さで歌う。
（一流ホテルの高級ハンバーガーを手づかみでかぶりつくイメージ）。
- 硬くならず、呼吸を整えて。
- 高音は音程の上から乗せるように出すことを意識し、縦を強調しないと詰まった音になる。
- 音楽堂などのホールは広い。舞台上からは口元でボソボソではなく、最後列の客席に届くように。でも力んだらむしろ届かない。「うわー！」としなくても響かせれば届く。
- 1000人のホール。ソリストだけでなく、「音が鳴っている（響いている）広がり」を、耳でなく目で追ってみる。「ここが鳴っている、こうやって鳴っている」と分かればOK。ホールの上の奥に向かって届ける感じ。

【Weather Side】 ○特にオペラ歌手のつもりで格式高く。

1) Sailing, Sailing

○曲想と注意事項：勇ましく、でも勢いづいて糸の切れた凧にはならず縦に。

○T1 28小節のmainのロングトーン。

2) The Ebenezer

○「Ebenezer」の発音：「エベニィーザ（カタカナ表記）」にそろえる。

○指揮は、1・2・1 2 3 4で開始。これにオンビートで乗ること（突っ込まない・遅れない）。

○歌詞のしゃべりを焦って走らない、★慌てない★。テンポと歌詞の多さのギャップに戸惑わ
されしないで、音符一つ一つの長さをキープすること。

○T1 48小節後半「git a-long」は $\sharp E$ （ $\flat E$ ではなく半音高い）。次のFにつながる正確さ。

○全パート git a-long ~ も粒だったリズムで、ギタロン（カタカナ）にならない。

○他のパートの音を聞きあって、音程を合わせて調をそろえること。

【35小節～】

○T2 Bmは母音無し（ぶん びん びゅん ではない）。

○OB1 走らないでおちつく。（ブン・ン・チャン・ン・ブン・ン・チャン のリズムにのって）

○OB2 ベースの弦をはじくような音で。地声（バァン、ビァァンとか）はNG。

【63小節】

○T1T2 gitの入り（食いつき）とテンポの遅れに注意。

【64小節】

○T2 2拍目 longの $\sharp B$ を正確に。上がりきらず $\flat B$ だと、3拍目のdoも上がらない。

3) Erie Canal

○空気感をガラッと変える。音取り前に冒頭のメロディとグルーブ（リズム）を頭の中で流し
曲想をイメージしておく。

○指揮は1, 2で開始。

○ソロ（西川さん）のグルーブ感（リズム感）をよく聞いて、それに乗っていくこと。

○OB2 ソロは、大きいのはいいけど、「ア`～」と歌いこまない、神秘的な雰囲気ですぐ響かす。

○OB1B2 18小節の跳ね（付点8分音符～16分音符）、19小節（跳ねない）のメリハリ。

○雑になりがちなので注意。

○21小節～ev' -ry-bo-dy down 'cause we' re go-ing to a town は、パンッ/パパンッ/パ
と切れよく跳ねる（ノペーと流さない）。Down、Townのケツもしっかりと切る。

【21小節～】

○単純だが4音構成和音なので結構分厚くなる。もっと縦にかっこつけて歌う。

○T1T2 25小節～ もパンッ/パパンッ/パ と跳ねつつ拍の頭はオンビートで入る。

パンッ/パのッの間が詰まりがちなのは、歌詞を省略しているから。

4) Can' t You Dance the Polka

○指揮は1, 2で開始。

○曲想は、ズンチャ/ズンチャ、ンパ/ンパ→裏打ちのリズム。それに乗って楽しく。

○しゃべりを意識してしまい、若干焦って走る傾向あり。

5) I' ve Got Six Pence

- 曲想の切り替えを意識。**跳ねる感じから行進曲**（マーチ：テンポ、リズムの切れ）へ。
- テンポはあくまでマーチ。**歩ける**速さで。
- 指揮は1, 2で開始。
- T2 16-17 小節のメロディはリードボーカルとしてしっかりと。
- T2B1B2 28 小節 3 拍目の四分音符は**長さキープ**(ラァィフ)。(T1 の動きを効果的に聞かす)。
- 最後まで音量をキープ。後半疲れて小さくならない。
- ピャァピャァした発音はしない。オペラ風に。

6) Lowlands

7) Blow the Winds Southerly

- 指揮は、1 2 3 1 2 3（ワンツッスリ、ズンチャッチャの感じ）。
- 8 分の 6 を感じる（揺れるように）。このリズム感が崩れやすい。
- 【全体】
- 横に開かない。「ラバアートウーミー」「ボニーブルーシー」など。
- この曲の前の丸山さんの MC の時に**モードを切り替えて演奏前に 8 分の 6 のリズムを体に入れておく**。リズムの取り方は、「イチ」「ニイ」「サン」ではなく、ズウンチャッチャーズウンチャッチャー（もしくは、ウウンタッタァーウウンタッタァー）で、振り子の動き、船の上で肩を組んで揺れて歌っているようなイメージに近い。
- 着地の音の音程、長さ、発音をきちんと出す。「(lover to) me」「(bo-ny blue) sea」など。尻切れトンボにならず、キラキラ感が欲しい。
- T1T2 8 小節 They の入りが遅れがち。
- 全パート 10~12 小節の縦がそろっていない。他のパートをよく聞いて合わせる。
- 途中の変化部 (but my eye ~、but sweeter ~の二か所) は、パンパンパンとメリハリを。
- 【5 小節~8 小節】
- OB1 1 パートでメロディを担当するのでしっかりと。(後半の 2 括弧からも同様)。
- 【8~12 小節】
- 全パート共通 **とにかく他のパートをよく聴いてそろえる**。
- T1T2 走る傾向あり。歌詞を喋ると前に詰まっていく。音符一つ一つの歌詞をオンビートで。
- OB1B2 遅れがち。縦が揃わない。メロディをちゃんと聴いて 8 分の 6 のリズム感でそろえる。

8) Rolling Home

- 指揮は、1, 2
- 曲想は、「**さあ家に帰るぞ~**。」という前向きな思いを込める。囚人船での帰国の途ではない。
- 途中 (Then we' ll sing ~) は、**すごくゆっくり、ひそひそ感**で。でも**ボソボソ**ではない。
- 【冒頭 (Aメロ?)】
- Rolling Home の繰り返しは、1 回目<2 回目<3 回目と熱量を上げて盛り上げていくことを意識。全部が同じではだめ。(2 回目はメロディの音程が上がるので自然と盛り上がってくるので、特に 3 回目の盛り上げを特に意識しないと、逆に凹んで聞こえてしまう)

○T2 6小節目～のメロディは、パート内で音程をきちんと合わせること。

○B1 6小節目の3拍目のGの音量は、T2のメロディ（♯E）を消さない程度の強さで。

○T1B1 T2のメロディがきちんと聞こえてくる程度の音量の強さで。

B2 低音のB2はしっかりと響かさないと聞こえない。

○B1 Codaの先21小節の♭Aは転調のキーの音、確実に（7小節のA→21小節のF→♭A）。

【曲の終わり方】

○WeatherSideのラストの曲なので、最後まで音量を落とさないで歌いきる。

【Lee Side】

1) そうらん節

○ソーラン → S ソウラン 子音を強調。

【全般】

○日本語歌唱だけど、ベーターと平べったい声にならないように、

○低音はズンズンッと迫力で響かせるとかっこいい。

○高音も、ピャア～～と横でなく、縦にチョイヤアア～ とかっこよく（オペラ風だが、気取ってということではない）。

【5小節～】

○譜面上のpの表記にとらわれず、もっと元気よく、でないと消えてしまう。

T1T2 mf（でもデカすぎるのは都合が悪い）。

B2 低いからfでしっかり。

【27～28小節】

○T1B1 27小節4拍目の最初の16分音符はタイでなく16分音符4つ「オオオオ」でOK。そのほうがリズムがとりやすいはず。

○T1 28小節の3拍目裏の「ヤアア」はインテンポで突込んで。指揮はT1をキューにする。

2) うみ

○全パート ブレス位置4小節分はノンブレスで。

3) 海メドレー

【おやじの海】

○立ち上がりからエッジを効かせた歌い方で。前曲「うみ」からのモードの切り替え。

4) 海 その愛

【Aメロ?】

<音量バランス>

○自パートがメロディ（低音域）を担当するときはしっかりと。mpとかp気にせずに。

★ただ、途中でへばらないように。

○B1B2メロディ（2小節～、39小節～）はオペラ歌手風で、音を響かせ、飛ばすこと。

○T1T2 10～18小節、47～55小節の音量。B1B2の低い音域のメロディをつぶさない程度に。

○T1 T2メロディ（18小節～、55小節～）をもう何人かはメロディ歌うようにすれば、バランスとれるかも。

<リズム>

- A メロ途中の **16 分音符の連桁**は、食いつきが遅れないようにきちんと**オンビート**で入るこ。
【サビ (B メロ)】
- T1B1B2 「海よ俺の～～」はT2 のメロディが埋もれない程度まで抑える。
※ただし、**最後の繰返しの2 回目は全パート全開**でガンガンで盛り上がる。

5) 琵琶湖周航の歌

【全般】

- 疲れで集中力が持たないと、練習でマスターしたはずのところで**ばらつきが目立ってくる**。
例：リズム（入り遅れ、パート間で縦が揃わない）、歌い方（縦）、音程のズレ、など。
- これぞ男声合唱団としたいので、特に強くオペラ風の縦に縦に、きれいに、を意識。
（特に）終盤に集中力が途切れて声が横に広がらないよう。
- 琵琶湖のさざ波の中を周航しているような音量で表現。「丁寧な鼻歌感覚」のイメージ。
それをベースにしつつ、曲中でのメリハリもつけていく。
- ブツブツと音を切らないように。ブレスを工夫して**
- 転調の箇所は音は大丈夫なので、自信もって丁寧に。
- スタートは鈴木純さんのタイミング。
- フレーズの最後まで大切に**。
例 T2B2 なみまくらあ～あ の「らあ」～「あ」の**音程の変化**をきっちりと歌いきる。
→「あ」まできちんと丁寧に。その際、変化しないT1B1 もその音符の長さで歌う。
（他には、もりか～げに～い とかも同様。**いくつかこのパターンがあるので確認要**）。
- まつはみどり～が**くしゃくしゃ**。自分のパートの**入る位置をきちんと整理**して。
- T1T2 **なつかしみ** の食いつき遅い。食い気味に（といっても突っ込まない）。場合によっては、**B1 の「なつ」を歌ってもよい**。（ナツなつかしみ）。
- T1 ゆくーえ の先の**「さだめぬ」がなくならないように**。ファルセットでもよい。

6) おやじの舟歌

- ポニージャックス風にかっこよく。ふねを「コゲエー」とかにならないように。
- 【ふねをこげー】の「げー」の音の長さ：全パート→**基本は指揮が切るタイミングに合わず**
 - ・24 小節 は 付点四分音符で切る（譜面通り）。
 - ・**28 小節、34 小節 は、二分音符の長さ**を歌う
（※譜面によっては、二分音符+二分音符になっているが、後ろの二分音符は不要）。
 - ・**47 小節**は、1 回目 2 回目は付点四分音符、**3 回目は二分音符**（後奏への余韻を持たせる）

7) ウキスキージョニー

- ラストのサビの繰返しは2 回とする。テンポアップは2 回目の繰返しあたりから。
- コーラスも好きに体揺らして楽しみましょう。

8) Pearly Shells

9) Red Sails in the Sunset

○やっぱり縦にかっこよく、かっこよく。「ラブワン、とうみー」と平べったくならない。

10) Strike the Bell

○曲想をガラッと変え、元気よく。でも縦に縦に。

○歌詞をよーくしゃべる。

【全般】

○茶化した曲想なので、元気よく歌っていいけど、縦にすればするほど横文字が聞こえてくる。

【サビ】

○T2B1B2 は、低音域のメロディなのでガンガン歌わないと T1 にまける。

○T1 は高い音が悪目立ちしがち。T2B1B2 のベースに乗っかる感じで。

【Encore】

1) 最上川舟歌

【全般】

○エンヤコラは掛け声で、「エン」は強く「ヤコラ～」とのメリハリをつける。

マァアカシヨ は、一語一語切れよく。「まーーかしよ」とならない。

【40 小節】

○B1B2 「エン」は力強く、迫力で。これがアクセントになる。

【43 小節～】

○T1T2 和楽器での伴奏のような音色で。

○B1B2 その伴奏にドンと mf でメロディを乗せていく。

【52 小節～59 小節】

○T1T2 メロディになるので、ガンガンに。

○B1B2 入れ替わって伴奏になるが、音が低いので、f で。ガンガン響かせて。

【71、72 小節】

○全パート 各パートの延長で結果同じ音になった、ではなく、全パートが一体となるという意識を強く持つ。